

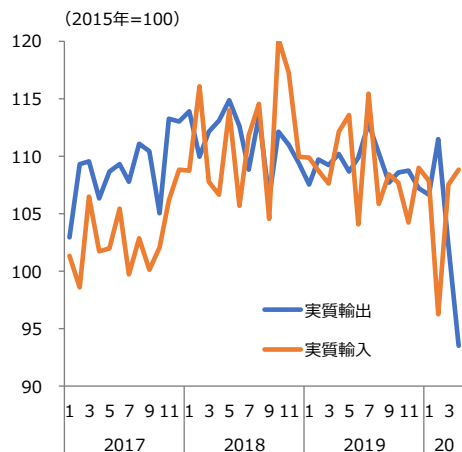
日本

貿易統計 (2020年4月)

## 海外需要縮小で輸出は大幅減、回復には時間を要する

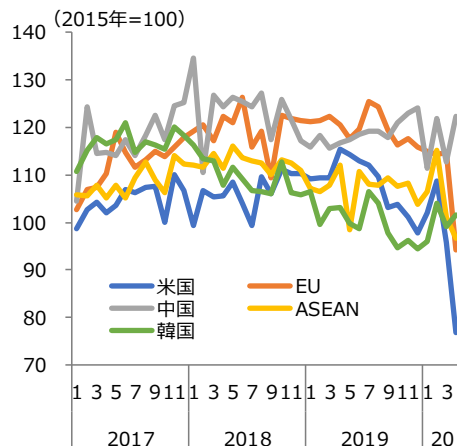
政策・経済研究センター  
綿谷謙吾  
03-6858-2717

## 1 実質輸出入



注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。  
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 2 実質輸出：国別

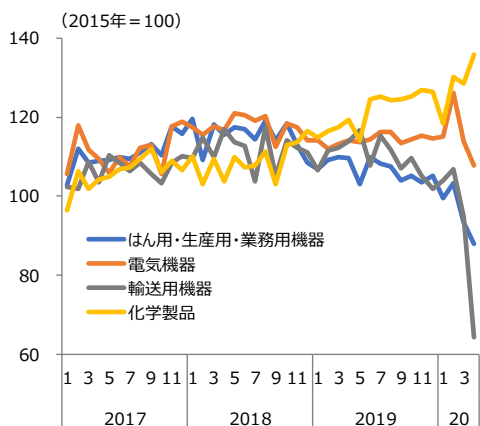


## 評価ポイント

## 今回の結果

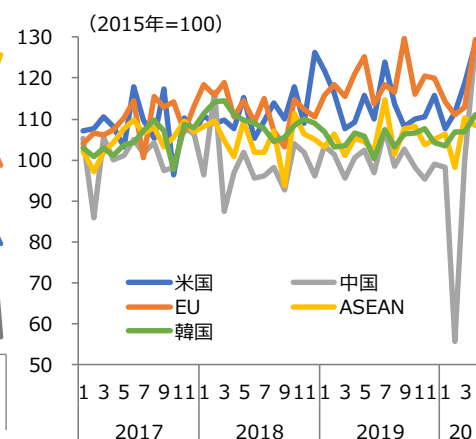
- 20年4月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比▲8.5%、実質輸入は、同+1.2%（図1）。貿易収支（季節調整値）は、▲9,963億円。輸出は新型コロナウイルスの感染拡大による海外需要の縮小から、2カ月連続の大幅な減少となった。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、感染が急拡大し経済活動の抑制が強い米国（前年同月比▲19.8%）、EU（同▲17.8%）向けが大幅に減少。米国、EUともに輸送用機器、電気機器が大幅に減少し全体を押し下げた。中国向け輸出は同+8.6%と増加。中国では経済活動が再開しつつあり、それに伴い輸出が増加したとみられる（図2）。
- 品目別では、輸送用機器が前月比▲32.1%と大幅に減少（図3）。主要な輸出先である米国を中心とした世界的な需要の減少に加え、工場の生産停止等が影響した。
- 実質輸入（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、中国からの輸入が前月比+28.5%と2カ月連続で大幅に増加（図4）。中国の生産活動再開により、1月・2月の感染拡大中に注文していた製品が中国から輸入されたとみられる。

## 3 実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。  
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 4 実質輸入：国別



## 基調判断と今後の流れ

- 輸出は、新型コロナウイルスの感染拡大による海外需要の縮小から、減少傾向にある。
- 先行きは、低水準での推移を予想する。新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の抑制により、海外需要の縮小は避けられない。当社が5月19日に発表した経済見通しでは、6月以降経済活動の抑制を徐々に緩めるシナリオでも、20年の世界経済の成長率は前年比▲3.0%とマイナス成長に陥る。5月以降、欧米では経済活動再開の動きがみられるが、経済活動の正常化には相応の時間を要する。また、国内では緊急事態宣言の解除地域が拡大しているが、生産設備の稼働率はまだ低く、供給面でも輸出の回復には時間を要する。
- さらなる下振れリスク要因は、国内外での経済活動抑制の長期化だ。経済活動を再開した一部の国では、感染の第二波が発生しており、経済活動の再開と再流行が繰り返され、経済活動の抑制が長期化する可能性がある。こうしたリスクが顕在化した場合、海外経済の減少、サプライチェーン寸断が長期化し、輸出の停滞はさらに長期化するだろう。